

上京

史蹟と文化

美を創る

翁や老人、男女、怨霊などの能面（面〱おもて）で顔を覆い、豪華な装束を身に着けて、謡い、囃子に合わせて舞う「能楽」。室町時代に観阿弥や世阿弥によって体系化された申楽さるがくがルーツで、現在は観世、宝生、金剛、金春、喜多のシテ方五流派を中心に、その伝統を継承、発展させている。

能楽観世流シテ方で、「河村能舞台」当主である河村和重さんもその一人。能楽師歴60年を超える河村さんに能楽に対する思いをお伺いしました。

烏丸通上立売上ルに建つ河村能舞台。和重さんの祖父北星さんが未だ存命だった1956（昭和31）年に完成した。北星さんは謡い好きが高じて写真家からプロの能楽師に転じた異色の人。北星さんが和重さんの実父、二男の禎二さんらに諮って能舞台を建てたのは「戦前のこと、舞台を借りる約束をしていた観世能楽堂から直前に使用を断られた。これはえらいことだと替わりの会場探しに奔走して、ようやく興正寺（堀川七条上ル）の能舞台を借りることができた。ところがお客様にこれを徹底する時間がなく、来られる方が何



能楽観世流シテ方

「河村能舞台」当主

河村 和重

上京区烏丸通上立売上ル柳図子町

人もおられた。これはいかんと円タクを手配してピストン運転で送り届けた苦い思い出があった」から。「やはり自分の能舞台を持たねばとの思いが祖父や父には強かったはず」。古い屋敷を譲り受け出来上がった能舞台。和重さんも家族と一緒に、相国寺東側にあった旧宅から移り住んだ。

「もの心が付いた頃から謡いの稽古をしていました。祖父と対座して『いかに申すべきのことの候』と謡えばその通りに、『それ八天人の羽衣とて。たやすく人間に與ふべき物にあらず。もと乃如くに置き給へ』などの一言ずつを、オウム返しに謡わされました。ただし対座は対座でも顔は合わさず、祖父に背を向け壁に対して謡つのです」。こうした稽古の繰り返しで、曲や節の流れ、変化を身体に覚えこんだ。幼い子なりに登場人物の装束やその場面を思い浮かべるようになる。謡いと共に重要なのが仕舞しまい。紋付・袴姿で、背筋を伸ばしてすり足運びで基本的な動作を身に着けていった。

和重さんが初舞台を踏んだのはこの頃。「母方が大阪の山本という有力な能楽師で、その縁から私の初舞台は大阪の山本能楽堂でした。『鞍馬天狗』の花見役という、そろそろ沢山出てくるお稚児さ

んの一人としてです。その時のシテは母方の祖父である山本博之が務めてくれました」それが56年の1月。この舞台が出来たのが3月ですからごく直前のことでした」

3歳の初舞台、そして河村能舞台完成から64年が過ぎた。「その頃から能楽師の道を進むことはつきり決められていたみたいで。祖父母や両親といろいろな催しに行っても『この子はちっちゃい時からお能が好きで好きで』と常に言われる。私は『好きだ』といった覚えもないのにね。子方がとても忙しく、月10番ほど違う衣装を着ける役が続く時代で、いろいろな曲を覚えさせられました」「こつしたことから能楽の道を進むのに迷いはありませんでした」「私も弟二人もその子どもたちも、山本方の従弟も二人、能楽師をやっていますね」

和重さんはこれまでに二百番を超える観世流の演目の中から「千歳」「石橋」「狸々乱」「道成寺」「安宅」「砧」「望月」「三輪白式神神楽」「卒都婆小町」「鸚鵡小町」などおよそ百八十番を演じるとともに、欧米での多くの公演を通じて海外にも能楽の魅力を伝えてきた。白峯神宮で催される上京新能の運営にも長年携わっている。

そして現在も現役の観世流シテ方であり、「河村能舞台」の当主として自ら舞台に立ち、河村一門の束ねる立場にもある。シテ方は能の主役であるだけではなく、「舞台のためのプロデュースにはじまり、広報、面・装束・道具類の管理や手配も行い、



初シテ「狸々」河村 和重（八才）

舞台のすべてを組み立てる。第三者の意図を介さない、舞台の上にあるものだけがすべて。同じ演目であっても、舞台によって異なる印象を残すのは、シテ方に拠るところが大きいと言える」（『手・能トットコム「能楽トリビア」による』）。

『羽衣』を演じるにしても、若い頃と現在とでは謡いも仕舞も衣装も異なる。相手役であるワキを誰に頼むか、装束はどれを選ぶか、小鼓、大鼓、太鼓、笛（能管）の囃子方をどうするか、地謡をどうするか。相手の都合や予算もあり、常に頭を悩ませますね」。数多い能装束の保存、修復にも配慮が欠かせない。

能は素人から専門家まで誰もが取り組め、演目のストーリーの奥深さ、演者の多様な表現、地謡や囃子などの要素が組み合わせられ、幽玄という言葉に魅了される総合芸術。これを極めるのは至難と云える。和重さんは「新しい演目に取り組むよりも、これからはシテ方として地謡の充実に努めたい」そうだ。地謡は8人で構成され、2列に並んで座り、主人公の心の中を謡ったり、出演者と共に謡う、いわば能のコーラス。そのリーダー役を地頭（じがしら）という。「地頭の意識によつて周りが付いていけるかどうか。周りに駒が揃わなければいい地謡にならないが、グループの人たちを上手く回していくことも大切で、その兼ね合いが難しい。いい地謡を極めたい」とこれからを語る。

円熟期の和重さんから目が離せない。

（福井 和雄）



上京の埋蔵文化財

― 地中にのこる今出川通沿いの公家屋敷跡 ―

はじめに

京都御苑の北、同志社大学・同志社女子大学キャンパスの今出川通沿いには、江戸時代には公家屋敷が立ち並んでいた。その一角で、2019～2020年に同志社大学によって発掘調査が行われ、その一部が明らかになった。そこで、発掘地点にあった同志社大学致遠館^{ちえんかん}という建物について、さらにこの近辺の江戸時代のありかた、その地点の発掘調査の成果について、の3点を紹介したい。

同志社大学致遠館の建て替え

同志社今出川校地には、いくつもの近代建築があり、このうち7館が明治～大正期建築物として国から重要文化財あるいは登録有

形文化財に指定されて修復保存しながら利用されている。それ以外にも大正期に建築された建物として致遠館という近代建築がある。この建物は、1916年3月に教室として竣工した建物で、W・M・ヴォーリーズの設計と言われる。館名は、同志社英学校で学びジャーナリストとして著名であった徳富蘇峰^{とくとみそほう}が、諸葛孔明^{しよかつこうめい}の言葉「寧静^{ねいせい}に非ずんば以って遠きを到^{きわ}むるなし」から命名したものである。建物の入口には、蘇峰の書になる扁額^{へんがく}が掲げられていて、総務部や財務部等の事務棟として利用されてきた。赤レンガ2階建ての外観は、同志社大学正門を入ると目の前にあり、来校者にキャンパスを印象付ける建物でもあった。



建替前の致遠館
(2019年7月 入口に蘇峰書の扁額がみえる)

今出川校地の機能拡大にともなう事務棟の整備が必要になり、この致遠館が建替えられて機能拡大される決定が2018年度に同志社大学によって行われた。国指定文化財ではないにしても大正建築を破壊して別の建物を建設することには学内から異論も多く出た。しかし、大学執行部は計画を変更せず、建替えは現実のものとなった。この事態を嘆く教員は多い。キャンパス内の歴史遺産にかかわる私も忸怩^{とじじ}たる思いである。大学としては、せめてもの対策として、同志社大学社史資料センターを中心に詳細な建物記録を作成して報告書を公開することとなった。

お葬式 家族葬
公益社

北ブライトホール [堀川紫明] 山科ブライトホール [五条外環]
中央ブライトホール [五条東山] 伏見ブライトホール [丹波篠新堀川北]
南ブライトホール [油小路八条] 向島宇治ブライトホール [宇治横島]
西ブライトホール [五条西大路] 大津ブライトホール [大津駅南]

家族葬専用 別邸 向島宇治 [宇治横島] 家族葬専用 別邸 大津 [大津駅南]

☎ 0120-004-200

24時間365日対応、無料相談

京都 公益社 検索



江戸時代には北半が武家居宅・南半が公家・禁裏関係者の居宅だったとみるべきだろう。

発掘された屋敷建物跡と庭施設

発掘調査では、北半部には江戸時代の石組や瓦積の井戸などが多数見つかり小規模な近世居宅がいくつもあった状態が類推できる状態だった。注目されるのは、調査地南半部の江戸時代後期の遺構群である。東西南北方向に1.5〜2m間隔でならぶ礎石列^{そせき}がいくつも見つかっている。おそらく公家屋敷の建物跡だろう。礎石は建物の建て替へことに移動することが多いので、発掘調査でも建物全体の形状がわかるほどは残っていないかった。また、この礎石列方向に平行するように、塼^{せん}（板状の瓦質品）



公家屋敷の礎石と塼敷列



石組につながる漆喰導水管
(庭園施設)

がし字形に敷き詰められた石列を伴う遺構もみつかった。建物に伴う庭の通路あるいは雨落溝^{あまわりみぞ}かもしれない。塼は禅宗寺院で良く用いられる建築資材のため近接する相国寺との関係で、公家屋敷内で利用されたとも考えられる。さらに注目されるのは、江戸時代後期の漆喰造りの遺構である。平坦に漆喰が敷かれた部分と、四角い管状の形態の漆喰部がみつきり、管状部は石組の施設へつながっている。おそらく、庭に漆喰造りの池をつくり石組の水溜場へと水を流す施設であろう。これらは庭園遺構と考えられる。京都御苑内の公家屋敷地や同志社女子大敷地の二條家邸跡でも同様の遺構が江戸時代後期〜末に多数見つかっている。つまり、京都では公家屋敷の特徴を示す庭園遺構といえよう。白い漆喰造の池に魚（鮮やかな金魚や鯉かもしれ

ない）が泳ぐ様を、公家やそれにかかわる人々が眺めていたことが想像できる。これら



発掘調査の現地公開の様子

一部を遺構復元して建て替えられた致遠館の傍らに常設の屋外展示施設を設ける予定である。

これ以外にも、中世以前の遺構や遺物がみつきり相国寺境内の門前の施設の広がり確認できた。さらに下層では鎌倉時代・平安時代の東西方向の溝がみつかるなど、この地点で長く人々の営みが続いていたことが確認された。これらの状況は、2020年1月24日に発掘調査現地公開を行い、一般市民の方や学生など350名を超える多数の来場者を得た。こういった発掘調査成果は、現在、同志社大学歴史資料館で資料整理を

京都に生まれて五世紀



www.toraya-group.co.jp

行っている2022年には発掘調査報告書を刊行予定である。また、同志社大学歴史資料館は今出川校地に分館でもあるハリス理化学館同志社ギャラリーの展示室を持っている。報告書刊行後は出土品の展示会を開催したいとも思っている。上京区をはじめ京都のみならずには、その際には、ぜひご見学いただければ幸いである。

（同志社大学歴史資料館

教授 若林邦彦）

町名・地名は歴史のタイムカプセル

―室町幕府編―

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

今から四半世紀以上も前のこと
になりますが、私の学生時代のこと
とです。

入学当初は、同志社大学（上京

区今出川通烏丸東入ル玄武町6
01番地）まで、自宅の大阪市か

ら通っていたのですが、大阪地下

鉄の谷町線、阪急電鉄京都線、京

都市営地下鉄と乗り継ぎ、約2時

間もかかりました。往復ですと、

まるまる4時間です。一、二回生

の内は、何とか通学をしていまし

たが、三回生になりますと、秋の

時期に、非公開寺院の特別拝観案

内の責任者に任が控えており、連

日かなり早朝にお寺に入らなくて

はなりません。そこで、大阪方面

から通学していた友人達と一緒に

三人で、思い切って学生アパート

を一部屋借りることにしたのです。

今という「ルーム・シェア」ですね。

その時の学生会館の住所が「京

都市上京区上御霊前通新町西入

ル妙顕寺前町512番地」。

住所の中にも入っています「妙

顕寺」さんが運営する学生会館で

した。卒業と同時に私は単独で部

屋を借り、学生でも無いのに、部

屋を引き続き2年間も延長して貸

してくださったお寺に今は感謝の

念でいっぱいですが、当初は住民

票を移したり、諸々手続きをする

時がたいへんでした。何せ件の長

い住所です。

しかしながら、住所に通りの名称

と、町名を双方入れることが多いの

は、京都の大きな特徴なのだと気づ

き、その後京都の人達は、それだけ

町名を愛し、誇りに思い、そして大

事に守り続けているのだと知るに

至りました。またその後、その町

名は邸宅跡や社寺名、職業集団由

来など様々な歴史を記憶している

ということに気付き始めたのです。

上京区の町名だけをピックアップ

しましたが、ざっと450ほどは

有りますので、分類を試みた上で、

幾つかの町名・地名をグループ毎

にご紹介していきたいと思っています。

先ずは、今回「室町幕府」編です。

★「御所八幡町」烏丸通上立売下ル

現在「大聖寺門跡」や「同志社

大学 寒梅館」のある辺りです。

「御所八幡」の「御所」は天皇・

将軍、双方の「御所」を表し、後

宇多天皇里内裏、初期室町幕府、

室町幕府（花の御所）に鎮守とし

て「八幡

宮」が祀ら

れていたと

いうことを

表している

ようです。

「御所八幡

宮」という

神社は、現



大聖寺門跡と同志社大学寒梅館

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内西上ル柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂

やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>

お気軽にお問い合わせください

在中京区にもあります。御池通に

面しており、室町幕府の初代將軍の足利尊氏または弟の直義が邸内に祀ったといわれています。実は「御所八幡町」という町名も中京区にも存在し、その辺りが足利尊氏（又は直義）邸跡とされています。しかしながら現在の「御所八幡宮」は御所八幡町ではなく、お隣の「亀甲屋町」という住所になっています。どうやら戦時中の御池通を疎開道路にするため、拡張された折、ほんの少しですが、移転したそうです。おそらくは孫の義満が、室町幕府（花の御所）を大きく造営した際に、祖父（又は大叔父）が八幡社を建てたことに、ならったのではないのでしょうか。八幡神は「八幡太郎義家」でも知られるように、源氏一党にとつては重要な神様ですので、源氏の流れを汲む足利氏にしても、守り神として丁寧に祀られていたことが判ります。また足利義満の母が、石清水八幡宮の検校、善法寺家出身ですので、殊のほか八幡信仰が強かったのでしょうか。

★「岡松町」烏丸通今出川上ル

（烏丸今出川交差点を含む）

足利義満が、日野宣子のために建てた館が「岡（岳）松殿」です。日野宣子は義満の正室、日野葉子の叔母にあたり、光厳天皇の後宮に入りました。天皇が上皇となり、薨去された後、春屋妙葩（相国寺の事実上の開山国師）を導師として、出家落飾したのです。

おそらくは「花の御所」の南に有った広い庭園の築山の周囲に建てられ、庭にある大きな松が目印となっていたのではないのでしょうか。その無相定円が開基となったのが「大聖寺門跡」です。その山号も岡松殿に因み「岳松山」といいます。大聖寺は、花の御所の邸内に叔母思の將軍によつて建てられた館を

ルーツとし、その後、岩倉長谷（左京区）や毘沙門町（上京区寺之内通



烏丸今出川交差点 北側（岡松町）

寺町西入ル）へと寺地を転々とししました。

また「岡松町」は、「片岡町」と「二本松町」が合わさつてできた地名と言われます。「片岡」もおそらくは室町御所の築山が高台を指していたと考えられ、「二本松」もその周辺にあつたであろうと推定されますので、やはり「花の御所（室町幕府）」の庭とその周辺に因んだ町名であることには変わりはありません。

★「築山北半町・築山南半町」

室町通今出川上ル

（室町今出川交差点を含む）

その名前から、人工に造られた小高い山が有ったことが判り、どうやら、その山とは「花の御所」の庭園内に築かれた小山のようです。この庭の築山には「烏帽子岩」と呼ばれる名石が有ったと伝わり、その後、天正15年（1587）豊臣秀吉が聚楽第に移そうと人夫を遣わしましたが、掘り出しては埋もれるという妙なことが重なつたので、天下人は名石を移すことを

諦めたという伝説が残っています。



「烏帽子岩」は京都の幾つかの寺院にも現存し、例えば清水寺成就院（東山区清水一丁目）にもあります。真如院（下京区柿本町）にも伝わります。醍醐寺三宝院に今もある「藤戸石」の形が烏帽子に似ていますので、私はこの石のことを指すのでは？と妄想したりもします。もしそうだとしますと、太閤の執念で、晩年には、醍醐の花見の前に、この石を移したということになります。細川家から、室町將軍、天下人へと伝わった歴史を持つ名石が、室町時代の一時期、ここに有ったと考えると、歴史の浪漫を感じます。

★「花車町」千本通寺之内上ル

（千本寺之内交差点を含む）

足利義満が、牛車にて現在の千本通辺りを通っていた時に、車輪のひとつが破損し、それを町に下付したという伝説に因んでいます。



足利義満が使用していたとされる牛車の車輪（大報恩寺 霊宝殿内）

おそらくは替えの車輪を花の御所から急ぎ運び、修理をしている間に、町の有力者の宅で休憩し、その御礼に車輪を渡したのではないかと考えられます。その、車輪が何と現在まで「大報恩寺」に寺宝として伝わっています。

その木造車輪の大きさから、当時の義満の権勢が偲ばれます。「花の御所」から来た牛車の車輪、または牛車そのものが花で飾られていた花車に由来しているのか？は定かではありませんが、義満が花の御所から出発して、この現在の花車町辺りを通過していたということとは、おそらく「北山第（現在の鹿苑寺）」に向かう途中だったと伝えます。

町内には浄土宗の寺院で袋中上人が開いたという「極楽寺」や、弘法大師空海ゆかりの「釘拔地藏」で有名な「石像寺」があります。

また近くの閻魔前町には「千本ゑんま堂」で知られる「引接寺」もあります。ゑんま堂の「普賢象桜」は、義満が殊の外好んだ桜であつたらしく、有る時、義満が時の天皇（後小松天皇）を誘つて、花見に向いてきたという伝えも残っています。その時も花車町を通っていたのかも知れませんね。

★「武衛陣町」室町通樫木町上ル
室町幕府も、末期になりますと、場所が南へと移転しており、現在の「平安女学院」の辺りにあった「武衛陣」と呼ばれた斯波氏の屋敷が、応仁の乱の後に拡張整備され、將軍邸となったようです。「武衛」というのは、「兵衛府」の唐名で、代々兵衛府の要職を継いできた斯波氏の代名詞的な呼び名でもあったようです。第13代將軍、足利義輝が、永禄8



「武衛陣」跡石碑と平安女学院中学校・高等学校

年（1565）三好義継・松永久秀らに襲撃されたのはこの邸宅でした。剣術には自信のあった義輝は近習や幕臣と共に果敢に戦いましたが、衆寡敵せず、やがて命運は付き、將軍邸も灰燼に帰したようです。

それから4年後に織田信長が、足利義昭を奉じて入洛し將軍邸を新たに造営したのも、この地です。新しい將軍邸は「二条城（新第）」とも呼ばれました。40年

以上も前になりますが、地下鉄丸丸線の工事の際に、信長が義昭のために造った二条城の石垣の遺構が発見されました。宣教師ルイスフロイスの記録によると、信長は工事にあたって、自ら陣頭指揮を執り、普請にあたつた人夫達を厳しく監督していたという話で、近くを通りかかった女性に、絡んだ人夫を、自ら一刀のもと制裁したというエピソードも伝わっています。

今回紙面登場の町名 エリアを確認



画像協力：上京区役所

す。將軍の権威を早期に復活させようとした信長の並々ならぬ気概を感じ取れそうで、將軍を武で守ろうとした信長にこそ相応しい町名かも知れませんね。そういえば、織田家の主君は斯波氏でした。將軍家・斯波家・織田家、因縁浅からぬエリアです。

※町名の由来には、諸説ある場合も多々あり、このコーナーではその一部を紹介させて頂きました。

新上京の昔ばなし

染殿町の二人

― 湯川秀樹と小島勇之助 ―

(文中敬称略)

我が国最初の路面電車

京都電気鉄道という、京都市内を走る電車が あった。1896(明治29)年4月から上京区岡崎で開催される第4回内国勧業博覧会の旅客輸送を目的に、93(明治26)年3月に設立された民営企業が運営する路面電車で、京電の名で親しまれた。

京電は、博覧会開催直前の96年2月に七条停車場と下油掛を結ぶ伏見線を最初に、開催初日に合わせて木屋町線(七条停車場―木屋町二条)、鴨東線(木屋町二条―岡崎博覧会場―南禅寺橋)、同年7月に中立売線(木屋町二条―寺町二条―寺町丸太町―丸太町富小

路間)、8月に同線1次延伸(丸太町富小路―烏丸丸太町―烏丸下立売―府庁前間)が開業、9月に同線2次延伸(府庁前―堀川下立売―堀川中立売間)、北野線(七条停車場―北野)が开通して、この年の中に市中路線網をほぼ完成させている。

さらに1901(明治34)年3月には、寺町丸太町から寺町通を北上、河原町今出川上ル青龍町に至る出町線が开通了。

このうち伏見線は我が国初の路面電車で、国の文化審議会はことし3月、現存する京電車両群のうち製造年



寺町通清和門口上ル付近の町並み

代が11(明治44)年と最古級の二号電車(堀川線で61年まで走行、現在は平安神宮神苑に保存)の重要文化財指定を答申したというニュースが新聞紙上に載った。

京電にまつわる話題も詳しく紹介したいが、それは別の機会に譲るとして、今回「新上京の昔ばなし」に採り上げるのは、若いころ出町線を利用したであろう二人の昔ばなしである。

湯川秀樹と小島勇之助

その一人は湯川秀樹(1907―81)。1949(昭和24)年に日本人初のノーベル賞を受賞した理論物理学者。京都大学・大阪大学名誉教授

で、京都市名誉市民でもあった。

もう一人が小島勇之助(1889―196



湯川秀樹



湯川秀樹「中間子理論」発表50年記念切手(1985年8月発行)

4)。衆議院

議員を務めた

山中隣之助を

実父に持ち、

東京帝国大学

医科大学薬学

科卒業後、東京山中銀行、大阪舎密工業、松竹キネマ会社などの役員を務めた実業家。

二人とも東京生まれで、湯川は

08(明治41)年に父・小川琢治(和歌山県出身)の京都帝国大学教授

就任に伴い家族と共に、小島は20

(大正9)年、いずれも梨木神社

の北隣り、京都御苑東側の石堀と

京電寺町線に挟まれた寺町通清和

門口上ル染殿町に移り住んだ。

記憶は京都から始まる

湯川の幼少から物理学者を志し中間子理論に挑む27歳までを綴った『旅人 ある物理学者の回想』という自伝がある。

湯川は小学校に入る前から、同居していた母方の祖父小川駒橘に



還暦を迎えた頃の小島勇之助

「四書五経」の手ほどきを受けた。

「私はこのころの漢籍の素読を決してむだだったとは思わない。意味もわからずに入っていた漢籍が大きな収穫をもたらしている。

その後大人の書物をよみ出す時に文字に対する抵抗は全くなかった。漢字に慣れていたからであらう。慣れるということは恐ろしいことだ。ただ祖父の声につれて復唱するだけで、知らず知らず漢字に親しみその後の読書を容易にしてくれたのは事実である」

〔旅人ある物理学者の回想〕

そして「私の記憶は京都に移った後から始まる。やはり京都が私の故郷ということになるのかもしれない」と記す湯川。同書でもわざわざ「染殿町」の一章を設けている。「京都に來た最初の二、三年のことは、ほとんど何も記憶に残っていない。ただ一つ、母の背中であつたうつつらしながら、夕闇の駅のブリッジを渡った印象だけが、不思議にいまもなお消えない。父

母に連れられて嵐山に行った帰りのことだったとか。御所の東、梨木神社の北となり、名も床しい染殿町に移り住んだ頃からだんだん思い出が豊かになる」

「この家を私どもは『六条さん』と呼んでいた。家主はお公卿さんであつた。お住居はどこであつたのか、お顔を見たこともなかつた。広い庭には苔がむしていた。前は寺町の通りで、出窓のすぐそばを幅の狭い電車が走っていた。道を隔てた向かいはお寺であつた。私どもは『ジウウケンジ』と呼んでいたが、本当の名は清浄華院というのであつた。なかなか由緒のあるお寺と見えて、お堂の大きな屋根の上に、菊の御紋が付いていた」

公家屋敷跡と新築屋敷

染殿町は、藤原道長が創建した法成寺の跡と伝えられる。湯川の住まいは六条家の古くからの公家屋敷跡、小島のそれは赤屋根のハーフチェンバー様式の新築屋敷

と、好対照だったようだ。

湯川と小島の二人には18歳の年の差があり、親しく交遊していたとは考えにくい、同じ町内同士。小島が入居したのは湯川が京都市立京極小学校卒業後、京都府立京都第一中学校に入学した翌年の20（大正9）年で、当時、吉田近衛町にあった同校に通う湯川が小島の姿を見て、あいさつを交わしたことは十分考えられる。

千年前もかくやありし

染殿町の南に位置する梨木神社。三條実万と実美を祀る旧別格官幣社であることは、前回に書いた。ここは京都を代表する萩の名所として知られ、毎年9月には「萩まつり」が催され、多くの崇敬・参拝者で賑わう。

その参道に湯川の短歌

「千年の 昔の園も かくやありし 木の下かげに 乱れさく萩」を刻んだ句碑が建つ。「千年前の平安京もこのように萩が咲いていた

のだろう」と

いう意味の句で、湯川が梨木神社の「萩の会」の初代会長だった縁で建立されたそう。

今年の「萩まつり」は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、多彩な奉納行事・お茶席を中止し神事だけが斎行されることが決まっている。

最高の日本切手収集家

話は小島に移る。

小島は東京帝国大学医科大学に在学时、学問に励みつつ、その一方でスポーツ、特に陸上競技に熱心に取り組んだ。11（明治44）年11月の東京大学運動会1000m走に12秒26で優勝したのをはじめ、同年に棒高跳び、13（大正2）年に40



湯川秀樹の句碑



梨木神社のハギの木

も日本切手収集を語る時、小島の名前を忘れることは出来ない。

龍四十八文のシート
(上が1版、下が2版)

手など質量と



レクシオンを除いてこれに匹敵するものは見当たらない。

「小島氏のコレクターとしての態度は、非常に厳正であり、対人的に好悪の感情が激しく尊大で近よりにくいとの評も一部にはあったが、後進のためにはその膨大なコレクシオンを惜しみなく示し、また研究のためとあれば快よく貸与した。純粹な気持で訪問したものに對しては、ビールの大杯をかけたむけ葉巻をくゆらせながら徹夜してでも語りあうという社交性をもっていた」(日本郵趣百年史戦前・戦中編)による)

梨木神社で「切手祭典」

その小島が思い立ったのが、自ら率いる日本愛郵協会主催の「切手祭典」の挙行だった。これは小島邸に南隣する梨木神社で、郵趣界の先覚を慰霊し、併せて自らのコレクシオンを公開して郵趣家の親睦を図るものだった。

なぜ梨木神社で行ったのか。同

社の祭神が日本郵便創業時に太政大臣だった三條実美で、切手発行に深い関りを持っていたからという、いささかこじつけのような理由かららしいが、40(昭和15)年5月に第1回祭典を開き、同社で式典、先覚者慰霊祭、遙拝、昼食を挟んで収集品展覧懇談会などを行い、席を岡崎つる家に移して懇親晩餐会を催している。出席者は40名だったと記録にある。

切手祭典は敗戦の年45(昭和20)年も含め56(昭和31)年10月の第17回まで毎年開催された。毎回招待状を自らデザインしたり、参加者に配る贈物を考えたりすることが小島の大きな楽しみであった。

小島の邸宅は終戦後、進駐軍に接収されたが、返還後もそこに戻らず京極小学校前に立てた鉄筋コンクリート2階建ての住居で残り



小島の挨拶状

の人生を過ごした。1、2階とも約4分の1が倉庫という間取りで、ここに収集品が収められていたという。

小島が亡くなったのは64(昭和39)年1月、自ら出場の機会もあったオリンピックの東京開催の9カ月前だった。



京電は後に赤字経営となり、やがて京都市営電車(京都市電)に吸収されて、その使命を終えた。寺町線はずっと単線のまま走り続けたが、24(大正13)年4月、京都市電の河原町今出川〜河原町丸太町間開業の影響を受け、同年10月1日に廃業に追い込まれた。(福井 和雄)

(※小島に関する記述は、「フィラテリスト小島勇之助の生涯(前・後)」郵趣研究135、136号を参考にした)



第1回の切手祭典

京都市指定



水を大切に・・・(24時間・年中無休)
水道・下水道修繕工事(空調)・井戸ポンプ設備・建物リフォーム

大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

0120-350672

消 防 設 備 全 般

上京の辻子

「慈眼庵の辻子(慈眼庵町)」

五辻通大宮東入ル下ルにある南北の辻子。「ちげん寺の辻子」「ちげながの辻子」ともいう。現、慈眼寺(出水通七本松)が、この地にあったことによる。

古地図によると以前の辻子中程に、「織田稲荷神社」が印されている。「緑紅叢書」にも写真と共に載っている。

かつて、元西陣校があった阿弥陀寺町に住んでいた阿弥陀寺の清玉和尚は、滋賀県坂本に阿弥陀寺があった頃から織田信長の知遇を受け、恩人であった。

本能寺の変による信長の急死を知った清玉和尚は、ただちに、寺僧とともに本能寺にかけつけ、信長以下百数十名の遺体を運び出したという。

事件当夜も本能寺で囲碁の手合せをしたばかりだったので寝所までよくわかつていて、裏門からなんなく急行したという。かねてより、萬が一何かあっても敵に首を渡すなど言われていたそう。

未だに信長の首級が無いのは謎とされているが、この辺りかもしれないとも言われている。

NPO法人 都草 山本 喜康



kamigyo EVENT kamigyo EVENT kamigyo EVENT kamigyo EVENT

「みんなで花を咲かそう」活動
春の一斉植替え

6月6日、ボランティアの皆さんによって、上京区役所前のプランターの一斉植替えが行われました。ここに植えられた四季折々の花々は、区役所に来庁される方や、道行く人々の目を楽しませようと、区民ボランティアの皆さんが毎日水やりや手入れを行っているものです。

夏に向けて植えられたのは、小ぶりで色とりどりの花を咲かせるペチュニア(カリブッチ)です。ペチュニアの花言葉は「心のやすらぎ」。庁舎前を彩る可愛い花々を、ぜひご覧になってください。



表紙写真

法輪寺 達磨寺(上京区下立売西大路東入行衛町457):芙蓉
撮影:京都写真家 水野克比古氏

法輪寺は、臨済宗妙心寺派に属し、享保12(1727)年に萬海和尚が創立した禅寺である。三国一といわれる起き上がり達磨をはじめ、心願成就を祈って奉納された八千余もの達磨を達磨堂に祀っていることから、達磨寺の名で親しまれている。

境内には、珍しい等身大の寝釈迦木像や、十六羅漢木像、徳川時代の鋳匠藤原国次作の妙音の弁天鐘、白隠禅師の夜船閑話で知られた白幽子の旧墓石などがあり、本堂には、日本の映画関係者を祀る貴寧磨殿や、島津源蔵(島津製作所の創業者)夫妻の念持仏を祀る学神堂等がある。また、本堂の南側には禅の悟りの境地を示す無尽庭がある。



【上京区文化振興会の事業について】

毎年開催しています「上京新能」および「上京茶会(秋)」は、新型コロナウイルスの影響により本年度は開催をとりやめました。開催を楽しみにされていた皆様にはお詫び申し上げますと共に、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

【広告主募集中】本誌に広告を掲載しませんか？

「上京・史蹟と文化」に有料広告の掲載を希望する広告主を募集します。商品のPRや企業のイメージアップに、ぜひご検討ください。

問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当)
TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895



京都人さえもが恋するホテル。

 BRIGHTON KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）FAX.075-431-2360
<https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。（TEL441-5040）
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部

 Doshisha University
同志社大学
<https://www.doshisha.ac.jp/>



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL: (075) 251-3120



創立以来八十六年にわたって、
和やかな家庭的な
雰囲気包まれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園
京都市上京区御前通一条下る（北野天満宮バス停下車南100m）
TEL.463-0111（代）
<http://www.kitano.ed.jp/>

（東洞院通）
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では
時計・貴金属
高価買取実施中!
鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心
ブランド品 販売・買取 **(株)よろず屋**

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号  ATF全国買戻ブランド品協会 認定店

本店	地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 園10:00~19:00 [土曜は18:00迄] 園日曜・祝日	☎0120-25-0700 📺10台有
四条店	地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ 園10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通)	Tel.075-241-7900 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

元祖
ぼたん鍋と
京料理
畑かく
京・上御霊前烏丸西
五〇七五・四四一・〇六二〇(代)



「たのんでよかった!」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。

 西陣の大工さん
みずほ工務店
TEL.075-204-8283
<http://www.mizuho-koumu.com>
京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752



西京白味噌

本田味噌本店

京都府上京区西京町一丁目五十八番八

<http://www.honda-miso.co.jp>



香木・薫香・匂香

山田松香木店

〒602-8014
京都府京都市上京区勘解由小路町164
(室町通下立売上り)
TEL(075)441-4694
FAX(075)441-1124



Malebranche
MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-8:00PM 年中無休(喫茶10:00AM-8:00PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

**単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です**
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257
<https://delivery-service.jp/>

